

1. 件名：福島第一原子力発電所における循環注水冷却・滞留水等に係る定例会
2. 日時：令和4年4月8日（金）10時00分～10時40分
3. 場所：原子力規制庁 18階会議室
4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

新井安全審査官、高木係長

高木技術参与（テレビ会議システムによる出席）

福島第一原子力規制事務所

黒川原子力運転検査官（テレビ会議システムによる出席）

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー

福島第一原子力発電所 担当6名（テレビ会議システムによる出席）

5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社から、資料に基づき、主に以下の説明があった。
 - 共用プールからキャスク仮保管設備への使用済燃料構内輸送作業開始時期の見通しについて
 - ✓ 本年8月末頃から6号機使用済燃料（1,456体）を取り出し、共用プールへの輸送を開始する予定である。
 - ✓ 共用プールの空き容量を確保するため、貯蔵されている使用済燃料を輸送貯蔵兼用キャスク22基（1基当たり燃料69体、合計1,518体収納可能）に装填し、乾式キャスク仮保管設備へ構内輸送し保管する。
 - ✓ 本年3月16日の地震により、共用プール建屋1階天井クレーン（以下「クレーン」という。）の走行不能事象等が発生したため、構内輸送作業の開始時期を今年の3月末から5月末へ見直す。なお、8月末頃に予定の6号機使用済燃料の取出しについては、計画通り開始する予定である。
 - ✓ クレーンについては、上記の地震後に試運転を実施したところ、走行コントローラを操作しても動作しない事象が確認され、その後の調査により、走行ブレーキ（4台中1台）が解除されず、ディスクの回転が制動されていたため、走行不能になっていたこと、天井クレーンの外観点検時にギアカップリングカバーが2箇所割れていることが判明した。
 - ✓ 今後は、異常のあったブレーキの点検・整備と、割れが発生したギアカップリングカバーの交換を本年5月中に行い、クレーンの動作を確認でき次第、構内輸送を開始する予定である。
- 原子力規制庁は、上記説明を受けた内容について確認するとともに、以下のコメント等を行った。
 - 今回確認されたブレーキやギアカップリングカバーの異常事象について、地震時の荷重がどのように作用し影響を及ぼしたのかそのメカニズムを総合的に検討し、異常が顕在化した部位に限らず、調査内容及び対策について整理して説明すること。
 - 検討に当たって、中越沖地震で柏崎刈羽6号機の天井クレーンの駆動軸の継手に破損が確認された事象等との関連性を考慮するとともに、5・6号機の使用済燃料プールのクレーンへの水平展開の必要性について検討すること。

6. その他

資料：

- 共用プールからキャスク仮保管設備への使用済燃料構内輸送作業開始時期の見通しについて
- 循環注水冷却スケジュール
- 使用済燃料プール対策スケジュール
- 燃料デブリ取り出し準備スケジュール
- 福島第一原子力発電所第1号機、第2号機及び第3号機の原子炉内温度計並びに原子炉格納容器内温度計の信頼性評価について（2022年4月提出）

以上